



向陵広場

発行号 第37号
発行日 平成30年10月18日(木)
発行元 向陵編集校友会
責任者 伊藤有司(県商10回卒)

鮮魚を家庭に届ける役割 山本 恵三 氏 県商21回卒(昭和47年3月)



山本 恵三 氏

400余年の昔(天文22年)戦国の武将今川義元のお墨付きによって、豊橋の魚町に魚問屋が創業された。初代の魚伊が現在の場所に店を開いたのは天保年間(1830~1843)のこと初代は白須賀の漁師、山本伊助である。

白須賀で漁して、魚を運んできて売っていたが、いつしか売の方が本業になり以来、鮮魚を扱い続けて現在の恵三さんの八代目に引き継がれている。

店の規模はあまり変わらず、商売を続けてこられたのは小売だけでなく卸し、仲買により顧客のニーズに応じた鮮魚を仕入れ短時間に配達等の機動性の賜物と思います。

ホテルや病院、給食など、最近は飲食店にも、新鮮な魚を配達しています。時代の流れに沿って卸す先も変わってきましたが、品質に自信があることは昔から変わりません。小売りも、店頭は大変な賑わいです。



豊橋魚市場「せり」

魚町は吉田神社に關係のある町内であり、祇園祭は、大切な神事で關係町内の協力のもとに毎年盛大に実施されている。私も子供のころより参加し良い思い出である。大人になってからは地元の為に多くの行事に参加し、ボランティアをしています。

現在の豊橋魚市場の沿革について記します。

明治10年に豊橋魚問屋が設立され、大正2年7月に株式会社豊橋魚市場に改名設立。昭和41年に現在地(下五井町)に15倍の敷地面積に拡大し移転。その周辺に食品関連が参集し、一大食品団地となった。平成5年7月さらにせり場、仲買店舗、食品センター等の施設の老朽化により、各施設の近代化を図った。



魚町の「魚伊商店」



祇園祭 頼朝行列「鼻高面」